

中濃地区会青年学舎 2010 第1講座レジメ

『青年部活動で学んだこと』 講師；ニッケンかみそり(株) 社長 熊田 純夫

～Ⅰ. 兵法経営 Ⅱ. 経営指針と兵法（リーダーのあり方）Ⅲ. まとめ～

①兵法経営研究会

②兵法書

孫子、韓非子、マキャベリ、クラウセビッツ

統帥綱領、作戦要務令

③ 1. 統帥綱領

- 一. 「会戦においては、彼我共に過失錯誤頻出し、予期せざる事変は随所に発生し、彼我の弱点危機は至る所に頻発するを通常とす。従って統帥指揮に任ずる者は悲観と楽観との波浪にゆられ、しばしば手に汗を握ることあるべし。故に信念なき者、積極主動の精神に乏しき者は、この悲喜交々の千波万波に翻弄せられて、ついに心理の平衡を失し、統帥の節調を乱し、捕うべき戦機も捕うる能わず、各兵団の努力を分散消滅するに至らしむ」。
- 二. いかにか優秀な将帥も、敵に勝つことのできない者は将帥としての価値はない。敵に勝つためには、まず部下の信頼を獲得するとともに、これに確信を与え、戦勝に対する熱烈なる信念のもとに、この部下を敵に指向し、万難を排してこの信念をつらぬかねばならない。戦勝を獲得するためには戦略・戦術の巧拙よりも、このことの方がはるかに重大な意義を持つ。
- 三. 将帥の具備すべき質性としては、堅確強烈なる意思およびその実行力を第一とし、至誠高邁なる品性、全責任を担当する勇氣、熟慮ある大胆、先見洞察の機眼、人を見る見識、他人より優越しありとの自信、非凡なる戦略的識見、卓越せる創造力、適切なる総合力を必要とする。
- 四. 危急存亡のときに際会するや、部下は仰いでその将帥に注目す。
- 五. 攻撃の重点は、状況とくに地形を判断し、敵の弱点もしくは苦痛とする方向に指向す。

2. 作戦要務令

- A 一. 軍を主とする所は戦闘なり。故に百時皆戦闘を以て基準とすべし。而して戦闘一般の目的は敵を圧倒殲滅して迅速に戦捷を獲得するに在り。
- 二. 戦捷の要は、有形無形の各種戦闘要素を総合して、敵に優る威力を要点に集中發揮せしむるに在り。訓練精倒にして必勝の信念堅く、軍紀至厳にして攻撃精神充溢せる軍隊は、能く物質的威力を凌駕して戦捷を全うし得るものとす。

三. 指揮官は軍隊指揮の中樞にして、又団結の核心なり。故に常時熾烈なる責任觀念及び鞏固なる意志を以てその職責を遂行すると共に、高邁なる特性を備え、部下と苦楽を俱にし、率先躬行、軍隊の儀表として其の尊信を受け、劍電彈雨の間に立ち、勇猛沈着部下をして仰ぎて富嶽の重きを感じしめざるべからず。為さざると遲疑することは、指揮官の最も戒むべき所とす。是此の両者の軍隊を危殆に陥らしむること、其の方法を誤るよりも更に甚だしきものあればなり。

四. 指揮官は決心に基づき戦闘指揮の方針を確定し、之に準拠して軍隊を部署し、且つ戦闘の終始を指導するものとす。戦闘指導の主眼は絶えず主動の地位を確保し、敵を致して意表に出で、其の予期せざる地点と時期とに於て徹底的打撃を加え、以て速かに戦闘の目的を達成するに在り。

B 一. 軍紀は軍隊の命脈なり。戦場到着の境遇を異にし、且つ諸種の任務を有する全軍をして、上将帥より下一兵に至るまで、脈絡一貫克く一定の方針に従い、衆心一致の行動に就かしめ得るもの、即ち軍紀にして其の弛張は実に軍の運命を左右するものなり。而して軍紀の要素は服従に在り。故に全軍の將兵をして身命を君国に献げ、至誠上長に服従し、其の命令を確守するを以て第二の天性と成さしむるを要す。

二. 凡そ兵戦の事たる独断を要するもの頗る多し。而して独断は其の精神に於ては決して服従と相反するものにあらず。常に上官の意図を明察し、大局を判断して、状況の変化に応じ、自ら其の目的を達し得べき最良の方法を選び、以て機宜を制せざるべからず。

三. 命令には、理由若しくは臆測に係ることを示すべからず。而して種々未然の形勢を挙げて一々之に対する処罰を定むるが如きは、之を避くるを要す。又下達せる命令のほか、妄りに指示を与うべからず。

④まとめ 1. 経営トップ

2. 攻撃